

# 令和6年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修参加報告

フィールド科学系部門生物生産技術班 増田 果南

## 1. はじめに（目的等）

中国・四国地区国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構の技術職員相当の職員にある者に対して、その業務遂行に必要な基本的、一般的知識及び新たな専門知識、技術等を習得し職員としての資質向上を図るため本研修に参加した。

## 2. 期間・場所

開催地等： 島根大学 松江キャンパス（全体講義，専門分野実習（情報処理分野））  
松江工業高等専門学校（専門分野実習（土木・建築分野，電気・電子分野））

## 3. 参加者等

中国・四国地区の国立大学法人及び国立高等専門学校機構の構成員 計28名

## 4. 研修内容

2024年8月21日（水）

全体講義Ⅰ（管理運営）

「国立大学の現状・将来課題と技術職員の役割」

島根大学 理事 増永 二之 氏

全体講義Ⅱ（土木建築分野）

「建設×デジタルによるインフラDXを牽引する次世代技術者教育」

松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 教授 大屋 誠 氏

2024年8月22日（木）

分野別実習

情報処理 実習 「Microsoft Power Platformを用いた業務支援ツールの開発」

土木・建築 見学 「尾原ダム見学」

電気・電子 実習 「UAV写真測量・GNSS測量，UAVを用いた3次元地形測量」

電気・電子 実習 「シリアルインターフェース付きセンサ使用時における接続方法の比較実験」

2024年8月23日（金）

全体講義Ⅲ（情報処理分野）

「データサイエンス概論」

島根大学 数理・データサイエンス教育研究センター 助教 瀬戸 和希 氏

全体講義Ⅳ（技術組織）

「技術職員組織と支援業務事例紹介」

島根大学 総合科学研究支援センター 技術専門職員 山根 冬彦 氏

松江工業高等専門学校 実践教育支援センター 技術長 川見 昌春 氏

## 5. まとめと感想

講義より、国立大学が法人化して以降、役割（産学連携や社会貢献など）が増加している一方で、経営状況は厳しく長期的なビジョンに基づく自由な運営は十分に行っていないこと、社会要請の変化、国際化、学生の変化への対応も考慮した将来の大学規模・機能の変化は必然であること、社会背景・要請の変化に応じて、技術職員の役割も変化するため、スキルアップ・アップデートが必要であり、各機関の技術職員のキャリアパス制度設計は課題であることを学んだ。改めて、社会の変化に合わせて、大学全体で教育環境の向上を目指していくべきだと認識した。

分野別実習では、Microsoft Power Platformを用いた情報処理を学んだ。実際の業務で利用するには、さらなる知識の習得や現場に合わせた工夫が必要であると感じたが、Power Platformを用いて業務の効率化に取り組む良いきっかけとなった。

工業高校におけるデジタル化について新たな知見を得るとともに、中四国地区での情報交換もでき、貴重な経験となった。これらを職場で共有し、全体で将来像を見据えて、日々技術の向上に努めていきたい。